

然環境の保全の状況や、それと相反する都市機能の充実度などによって、その用途内に確保されるべき自然環境に対する要求度合も変化してくる。その関係を計量的には握し、その地域、地域で保護・保全すべき自然環境の最低水準をグリーンミニマムとした。

グリーンミニマムを設定するに当たっては、仙台市16地域、石巻市、塩竈市、泉市、名取市各2地域、古川市、白石市、多賀城市、岩沼市、柴田町、富谷町各1地域の計8市2町の30地域にわたり、2,550人について住民のアメニティに関する意識調査を行った。

グリーンミニマム設定の方法は、①用途別（住居、工業）に調査地域の自然環境質を測定し、その地域の意識調査から満足度60パーセント（グリーンミニマムとして取り扱う自然環境は半数を超える人々の満足を得ることが必要とした数値）におきかえた場合の自然環境質指数を現況の自然環境質指数からスライドした。②調査地域周辺の自然環境質指数は当該地域を含むすべてのメッシュの平均値とした。③都市的機能の集積などは、その総合的な指標として取り扱われている人口の集積を用い、当該地域を含むメッシュの人口密度を人口集積とした。④自然環境質指数を横軸に、周辺の自然環境質指数と人口集積を縦軸にとり、傾向線を求めることによってそれぞれのグリーンミニマム曲線を算出し、これらを勘案のうえ具体の事業計画に即して、個別にグリーンミニマムを設定することとする。

なお、対象地域内の自然環境については、個人の庭の植栽や農用地などについても、当該地域の環境財として、公共性が高いと認められるものについては、植生評価度に加味することとし、その植生評価度を、庭木、街路樹については「6」、路傍雑草群落を「4」、花壇などを「4」、水田「4」、果樹園「4」とした。

また、今後の運用に当たっては、さらに調査地域を増加するなどにより、計算式を充実させるとともに、周辺自然環境質の評価及び開発行為地域内の区画、規模、道路幅員、公園種別などの評価についても別に策定する運用指針によってこれを定めていく。

#### (1) 住居地域のグリーンミニマム

周辺の自然環境との関連は、自然環境質指数の性格上、 $1 \leq x$ 、 $1 \leq y$ の条件を満たし、さらに、調査対象地域内の満足する自然環境質指数の分布が、 $1.5 \leq x$ となっていることから、一応1.5を下限として傾向線によるグリーンミニマム曲線を設定した。

#### (2) 工業地域のグリーンミニマム

工業地域は、調査対象が少ないため、傾向線でとらえるまでには至っていない。

しかし、調査3地域でみると満足度（60パーセント）に相当する自然環境質指数の平均は2.5である。